

第10回 JCO 焼却活動第三者会議議事録

1. 日 時

2018年11月5日（月） 13:30~15:20

2. 場 所

（株）ジェー・シー・オー 東海事業所 （第3会議室）

3. 議 題

- (1) （株）ジェー・シー・オー代表挨拶・出席者紹介
- (2) 前回議事録の確認
- (3) 前回会議における委員からの指摘等に対する対応状況
- (4) 焼却の運転実績、排気・排水等の実績報告
- (5) 焼却設備の見学
- (6) 質疑・意見交換・その他

4. 出席者

別紙のとおり

5. 配布資料

- ・資料10-1 第10回 JCO 焼却活動第三者会議 議事次第
- ・資料10-2 第9回 JCO 焼却活動第三者会議議事録【添付省略】
- ・資料10-3 焼却設備の運転実績、排気・排水等の実績

6. 議事内容

- (1) （株）ジェー・シー・オー代表挨拶

JCO代表者の挨拶が行われた。

- (2) 主査挨拶

本日もJCOの安全対策をしっかりと見て頂きたい。前回会議ではスケールというものが紹介され、これは改めてきちんと検査されるという報告があった。また、当初は1種類の溶媒を対象とした焼却とされていたが、色々の物が混合しているため、今後も気を引き締めて見ていく必要があると感じている。2014年の第1回目から4年を経過し、残すところ1年余りとなった。皆様から最後まで忌憚のない意見をお願いしたい。

- (3) 前回議事録の確認及び前回会議における委員からの指摘等に対する対応状況

資料10-2について、指摘された内容が反映されていることをご確認頂き、特にコメントはなかった。

- (4) 焼却の運転実績、排気・排水等の実績報告及び質疑・応答

資料10-3について事務局より説明し、以下の質疑・応答がなされた。

(有識者)

ハステロイはステンレスよりさらに強いものなのか。金属の成分が異なるのか。

(事務局)

ハステロイは有名な耐食性のニッケル合金で、クロムが約20%、モリブデンが約14%、タングステンが約3%、鉄は最大で約6%含まれている。

(主査)

今のところはハステロイ製保護板(テストピースと同じ意味)を取り付けてあれば腐食は抑制できるとのことであるが、現在も取り付けてあるのか。

(事務局)

ハステロイ製保護板は肉厚測定のために取り外した後、再度取り付けている。以前、ステンレス製保護板を取り付けていたが、腐食が進行するので取り外した。その後、保護板が無くても問題ないかとのご意見もあり、さらに耐腐食性の高いハステロイ製保護板を取り付けることとし、その有効性が確認できた。

(住民代表)

ハステロイ製保護板を取り付けたことにより安全が確認されたので、今後は当該箇所の点検を無くすのか。

(事務局)

また、来年4月に定期点検を実施する。

(住民代表)

緑色の腐食が確認されなければ、以降の点検は実施しない考えなのか。

(事務局)

毎年4月の点検は継続する。腐食の進行が早ければ、次の点検までの期間を短縮することも有り得る。

(住民代表)

次の点検までの期間が長くなれば、焼却終了時期は、より短縮されるのではないか。

(主査)

住民の方からすれば少しでも早く焼却が完了してほしいとの気持ちはあると思うが、一方で、最後まで安全な焼却を行う観点で、定期点検をしながら慎重に進めてほしい。

(主査)

このようなテストピースの検査はどのくらいの期間実施するのが適正なのか。ステンレスとハステロイの時の検査期間が異なっている。運転日数としての検査期間は、前者が27日間、後者が24日間である。このまま検査無しで運転することは若干心配である。

(事務局)

Hastelloy製保護板そのものではなく、冷却塔上部について検査期間の前後でざらつきの変化が無かったこと、及び煙道部分も大きな問題がなかったことから、運転は可能であると判断している。

この事象が問題となったのは、ダイフロイルやフッ素により腐食が早く進行することが懸念され、実際にステンレスの腐食が確認された。そのため、ステンレス製保護板では冷却塔保護の意味をなさず、ステンレスの成分であるニッケルやクロムが溶解して排水側に移行したため、ステンレス保護板は取り外すことにした。ただし、冷却塔上部自体にも若干ダメージがあるので、このままでは問題があるとの本会議のご指摘を踏まえ、Hastelloy製保護板を取り付けてテストを実施することとした。このような経緯があり、今回テスト結果の紹介に至ったが、テスト期間が短いと思われるので、来年4月にも腐食の進行状況を確認することとしたい。

(有識者)

資料10-3の7頁で、6箇所の肉厚測定結果が4.6~4.7mmで有意な変化なしとされているが、前回議事録では減肉していると記載されている。これはHastelloy製保護板の効果なのか。

(事務局)

Hastelloy製保護板の効果と考えている。

(主査)

今度、多くのダイフロイルが焼却対象となっていくのか。

(事務局)

焼却の最後にダイフロイルそのものが残るため、どのように処理・処分するかが課題であり、検討して報告させて頂く。

(主査)

前回、6月に住民説明会を開催すると聞いていたが、資料10-3の15頁に記載がない。

(事務局)

記載もれであり、6/27に「住民説明会で進捗報告」と追記する。

(有識者)

当初、空間線量調査会の参加者は多かったと思うが、最近、村外からの参加者はどのくらいあるのか。

(事務局)

つい最近も開催したが、村外からの参加はなかった。年4回開催し、必ず参加されるのは4自治会の方と東海村役場である。

(5) 焼却設備の見学(14:20~14:50)

(6) 見学後の質疑・応答

(有識者)

TBP/ドデカン溶媒が終了後、TBP/ケロシン溶媒が焼却されるが、火力が強くなるのか。

(事務局)

ケロシンを焼却しても燃焼熱は殆ど変わらない。初期には灯油で希釈して焼却していた。

(主査)

階段の下の床が水或いは油で濡れていた。油であれば滑るので危険である。

(事務局)

結露と考えられるが確認する。→(確認結果)近傍にあるフローメーターが結露し、水滴が床に落ちたものであった。

(主査)

終わりが近づくと人間は注意力が落ちたり、早く終わらせたい気持ちが強くなり雑になることもある。「第三者会議も見ている」と作業の方へ伝えて頂き、注意喚起を図ることで、次回までトラブルなく運転されることを期待する。

(有識者)

1階での説明時ボイラーの音が大きく、説明者から少し離れると聞こえづらい。小さなハンドマイクがあれば改善されると思うが、管理区域内に持ち込むことは可能か。

(事務局)

検討させていただく。

(有識者)

今後、機械油を焼却するとき不純物が多く、温度には影響しないものの、摩耗の要因となるので、しっかり確認し、最後なので注意して頑張してほしい。

(事務局)

拝承。

(住民代表)

溶媒焼却も終わりが見えてきたので、区切りとして、JCO臨界事故時の物品の保管状況等についても、過去の経緯を踏まえて今後どうしていくのか考えてほしい。地元アンケートを取るなど、いろいろなことをやって現在の状況があるが、当時の関係者が居なくなっていく。

(事務局)

それは本会の趣旨とは違っている。本会は溶媒焼却に関して関係者にお集まり願っている。

(住民代表)

それはわかっているが、この会は地元住民代表のメンバーは重なっている。この会以外に討議する場がない。

(主査)

焼却終了以降どうなるのかについて住民の方はある程度知りたいと思われる。その頃の住民説明会では説明をしていただき、事故現場の物についても、どのような考え方が良いのか、第3者会議で

はなく、JCO、東海村、自治会の皆様で議論して頂く方向になるものと考えている。

まずは、焼却が終了するまでしっかりやって頂き、終了した後にも事故現場のような物等が残っていることは、この第三者会議メンバー全員が思っていることなので、本会議の最後には、今後の方針を示して頂きたい。

今後は複雑な溶媒の焼却が残っているので慎重に進めていただき、次回は明るい見通しが紹介されることを期待したい。

以上

別紙

第10回 JCO 焼却活動第三者会議出席者（2018年11月5日開催、敬称略）

住民代表

No.		氏名	備考
1	東海村舟石川1区自治会	山川 典夫	
2	〃	寺門 博孝	
3	〃	水野 紀至	ご欠席
4	東海村外宿1区自治会	吉成 幸男	
5	東海村内宿1区自治会	本田 篤己	
6	那珂市本米崎自治会	海老澤 守	

有識者

No.		氏名	備考
8	放射性廃棄物の処理・放射線管理・保安等の専門家	吉澤 道夫	
9	〃	清水 武範	ご欠席
10	リスクコミュニケーションに係る専門家	土屋 智子	主査
11	近隣自治会からの推薦者	武部 慎一	
12	〃	恵利 いつ	

オブザーバー

No.		氏名	備考
1	東海村村民生活部防災原子力安全課	飛田 佳祐	
2	〃	鈴木 廣美	
3	那珂市市民生活部防災課	肥田野 強	
	〃	会沢 透	

事務局（株）ジェー・シー・オー

No.		氏名	備考
1	代表取締役社長	桐嶋 健二	
2	東海事業所長	北村 航一郎	
3	東海事業所副所長兼総務グループ長	清水 伸剛	
4	東海事業所安全管理グループ長	佐藤 克典	
5	東海事業所施設管理グループ長	篠原 篤	
6	東海事業所安全管理グループ担当課長	大関 昇	
7	東海事業所安全管理グループ担当課長	近藤 哲也	
8	東海事業所安全管理グループ担当課長	谷 俊二	

第10回 JCO 焼却活動第三者会議

議 事 次 第

1. 日 時

2018年11月5日(月) 13:30~16:00

2. 場 所

(株)ジェー・シー・オー 東海事業所 (第4会議室)

3. 議 題

- | | | |
|------------------------------|-------------|-------|
| (1) (株)ジェー・シー・オー代表挨拶・出席者紹介 | 13:30~13:35 | (5分) |
| (2) 前回議事録の確認 | 13:35~13:40 | (5分) |
| (3) 前回会議における委員からの指摘等に対する対応状況 | 13:40~13:50 | (10分) |
| (4) 焼却の運転実績、排気・排水等の実績報告 | 13:50~14:30 | (40分) |
| (5) 焼却設備等の見学 | 14:30~15:20 | (50分) |
| (6) 質疑・意見交換・その他 | 15:20~16:00 | (40分) |

4. 出席者(予定)

詳細は別紙のとおり。

(1) 住民代表

- ①東海村舟石川1区自治会
- ②東海村外宿1区自治会
- ③東海村内宿1区自治会
- ④那珂市本米崎自治会

(2) 有識者

- ①放射性廃棄物の処理・放射線管理・保安等の専門家
- ②リスクコミュニケーションに係る専門家
- ③近隣自治会からの推薦者

○オブザーバー：東海村村民生活部防災原子力安全課職員
那珂市市民生活部防災課職員

○事務局：(株)ジェー・シー・オー

以上

JCO焼却活動第三者会議殿

焼却設備の運転実績、 排気・排水等の実績

2018年11月5日(月)

株式会社ジェー・シー・オー

181105第10回焼却活動第三者会議資料

1

1. 焼却設備の概要

(1)焼却対象物

油類(保管溶媒): 灯油成分に近い石油類で作業中に使用していたもの

- ・リン酸トリブチル(TBP)-ドデカン
- ・TOA-オクタノール
- ・TBP-灯油(ケロシン)
- ・機械油
- ・ダイフロイル(フッ素、塩素含有不活性オイル)

約100m³(200ℓドラム缶換算約500本)



(2)焼却炉

型式 オイルバーナー燃焼式
 燃焼室サイズ 直径約0.9m × 長さ約2m

(3)焼却能力

油類(保管溶媒): 約30ℓ/時

(4)TBP(リン酸トリブチル)焼却後のリンの回収

TBPに含まれるリンは、

冷却塔・スクラバ・ミストフィルタによりリン酸として回収

2. 焼却の運転実績および排気・排水の実績

- ・2015年1月19日～2018年10月31日 累積で約80m³の保管溶媒を焼却
- ・30%TBP-nドデカンのTBP濃度で焼却
- ・排気、排水中のウラン濃度は検出下限値未満で平常時と変わらず(問題なし)

		2018年												累計
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
稼働日数 ^{注1}	日	8	14	14	14	10	8	0	4	12	8			465
焼却処理量	溶媒液量	m ³	1.52	2.64	2.67	2.61	1.88	1.52	0.00	0.74	2.23	1.48		80.30
	2000ドラム缶換算	本	8	13	13	13	9	8	0	4	11	7		401
排気 [第1管理棟] (核種:U)	1ヶ月平均濃度 ^{注2}	Bq/cm ³	*	*	*	*	*	*	*	*	*	測定中		*
排水 [廃水ポンド] (核種:U)	1ヶ月平均濃度 ^{注3}	Bq/cm ³	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*		*

注1)2017/8/23から保管中のTOA-オクタノールを10%混合した溶媒を焼却。

2018/6/18～8/17まで運転停止(作業者が他業務に従事、設備点検整備)、8/20から運転再開。

注2) *: 検出下限値(3.7×10^{-10} ベクレル/cm³)未満を示す(安全協定の放出管理目標値より1桁低い)

注3) *: 検出下限値(7.4×10^{-4} ベクレル/cm³)未満を示す(安全協定の放出管理目標値より1桁低い)

181105第10回焼却活動第三者会議資料

3

3. 設備点検(1)

1) 手順書に基づく、運転前後の日常点検

2) 法令設備の点検

水濁法の特定施設のスクラバー、冷却塔について
1回/月実施し問題なし

3) 冷却塔上部、煙道部の腐食健全性分解点検

定期的に1回/年実施

(実施日 2018年3月20日: 冷却塔上部

5月7日: 冷却塔上部、煙道部)

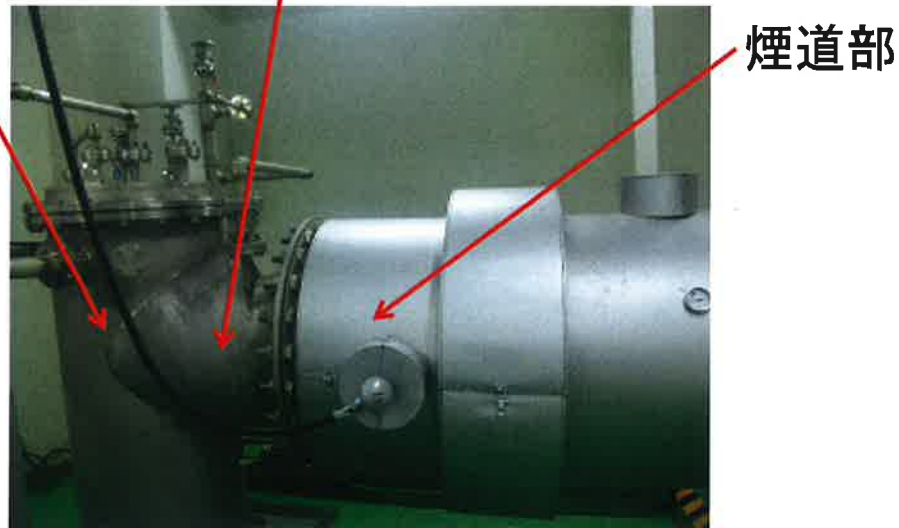
内部点検、肉厚測定の結果、問題なし

次回は2019年4月の予定

3. 設備点検(2)

冷却塔上部、煙道部の点検箇所

冷却塔上部A 冷却塔上部B(内部にスリーブ)



181105第10回焼却活動第三者会議資料

5

3. 設備点検(3) 内部目視点検結果

冷却塔上部A

・ Hastelloy製保護テストピース設置(2018.6.19)

腐食状況確認(10/18)

⇒ テストピースの肉厚変化なし、

冷却塔上部ABの表面のざらつき(摩耗)に
変化なし

181105第10回焼却活動第三者会議資料

6

3. 設備点検(4) 肉厚測定結果

冷却塔上部(測定:超音波厚さ計)

上部Aの排ガスが当たる箇所

6箇所の測定結果は4.6~4.7mmで

有意な変化なし

健全性判断基準 (製作メーカー見解を参考)

冷却塔上部(材質:ステンレス)

製作厚さ5mmに対して1mmの減少までが許容範囲

4. 焼却運転、設備点検の実績と今後の計画(1)

- 安全最優先で通常運転の継続

- 焼却対象

油類(保管溶媒)約100m³(200ℓドラム缶換算約500本)

残りは油類(保管溶媒)約20m³(約99本)

- 運転期間

油類のみ約5年 残り約1.4年

- 運転終了後の措置

設備解体

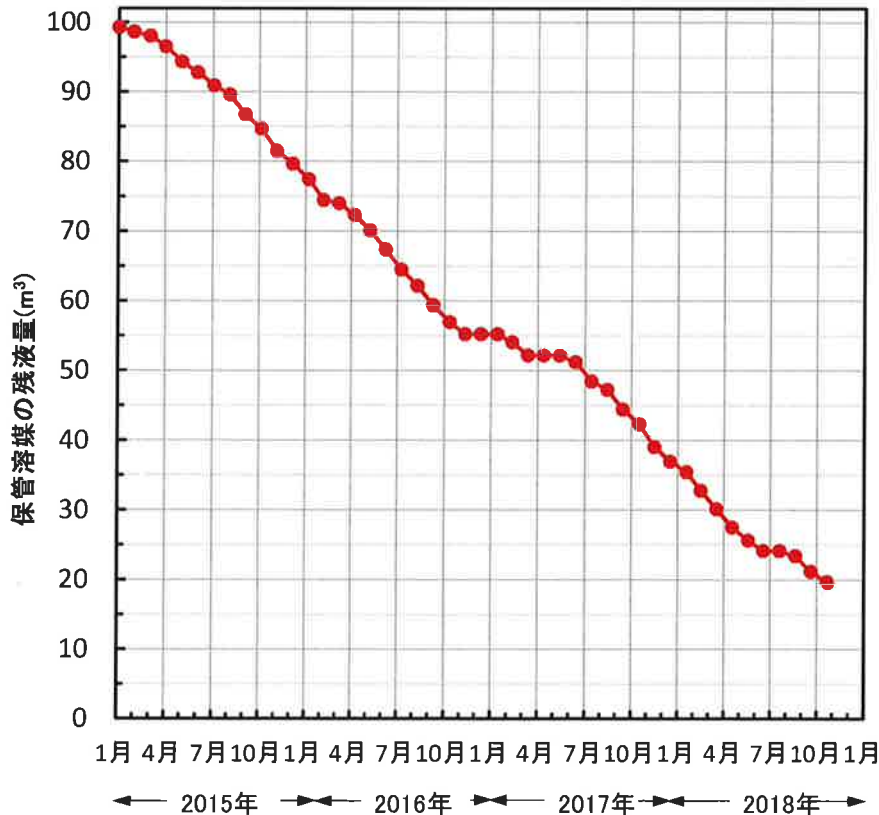
4. 焼却運転、設備点検の実績と今後の計画(2)

			2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
1. 焼却溶媒組成								
①20%~30%TBP-nドデカン(2015/5/8~)			[Blue bar spanning 2015 and 2016]					
②30%TBP-nドデカン (ダイフロイル混入:2017/2/20~)					[Blue bar]	[Blue bar]		
③30%TBP-nドデカン(ダイフロイル混入+ 10%TOA-オクタノール混合:2017/8/23~)					[Blue bar]	[Blue bar]	[Blue arrow pointing right]	
④TBP-灯油(ケロシン)(ダイフロイル混入+ 10%TOA-オクタノール混合)								
⑤機械油(灯油で希釈)								
⑥ダイフロイル(灯油で希釈)								
2. 累積焼却処理量	溶媒液量	m ³	20	45	63	80		
	200ℓドラム缶換算	本	102	224	315	401		
3. 設備点検、保守 (●実績 ○予定)								
①冷却塔上部、煙道部の腐食健全性 分解点検(年1回)				●	●	●●	○	○
②煙道配管部の材質交換、 冷却塔上部Bにスリーブ設置(2017/4/25)					▲			
③冷却塔上部にSUS304製 保護テストピース設置(▲2017/4/25) 腐食状況確認・取り外し(▼2017/8/30)					▲ ▼			
冷却塔上部に Hastelloy製保護テストピース 設置(▲2018/6/19) 取り外し・腐食状況確認(▼10/18)						▲ ▼		
④フッ素、塩素に耐食性のある冷却塔 熱交換器に交換(2017/6/12)					▲			

181105第10回焼却活動第三者会議資料

9

5. 焼却運転の実績 -保管溶媒の残液量の推移-



181105第10回焼却活動第三者会議資料

10

参考資料

焼却設備計画の経緯(1) (2014年)

2014年

- 1/ 6 設備撤去工事着工
- 8/ 8 第1回 第三者会議 : 規約確認、焼却設備進捗報告
- 8/28 住民説明会開催(5回目) : 設備見学、焼却設備進捗報告
- 10/ 6 放射線モニタリング測定値の公表開始
- 11/20 消防による危険物取扱所の完成検査受検
- 11/21 安全協定締結6自治体立入調査
- 12/ 3 近隣4自治会へ回覧 : 焼却設備の近況お知らせ
- 12/11 灯油・新品溶媒使用試運転開始
- 12/19 第1回 空間線量調査会
- 12/19 第2回 第三者会議 : 試運転状況見学、安全対策説明

焼却設備計画の経緯(2) (2015年)

2015年

- 1/17 近隣4自治会へ回覧 : 焼却設備の近況お知らせ
- 1/19 保管溶媒使用試運転開始
- 3/12 住民説明会開催(6回目) : 試運転結果報告
- 3/16~ 通常運転に移行
- 4/ 9 第2回 空間線量調査会
- 6/11 第3回 第三者会議 : 通常運転状況見学、運転実績説明
- 7/22 住民説明会開催(定期) : 進捗状況報告
- 7/24 第3回 空間線量調査会
- 10/22 第4回 空間線量調査会
- 11/26 第4回 第三者会議
: 通常運転状況見学、運転実績、点検対応説明

焼却設備計画の経緯(3) (2016年)

2016年

- 1/27 第5回 空間線量調査会
- 4/20 第6回 空間線量調査会
- 6/ 3 第5回 第三者会議
:通常運転状況見学、運転実績、点検対応説明
- 7/22 第7回 空間線量調査会
- 7/25 住民説明会開催(定期) :進捗状況報告
- 10/17 第8回 空間線量調査会
- 11/8 第6回 第三者会議
:通常運転状況見学、運転実績、点検対応説明

焼却設備計画の経緯(4) (2017年)

2017年

- 1/27 第9回 空間線量調査会
- 4/24 第10回 空間線量調査会
- 7/3 第7回 第三者会議
:通常運転状況見学、運転実績、点検対応説明
- 7/20 第11回 空間線量調査会
- 7/25 住民説明会開催(定期) :進捗状況報告
- 10/17 第12回 空間線量調査会
- 11/ 8 第8回 第三者会議
:通常運転状況見学、運転実績、点検対応説明

焼却設備計画の経緯(5) (2018年)

2018年

1/24 第13回 空間線量調査会

4/16 第14回 空間線量調査会

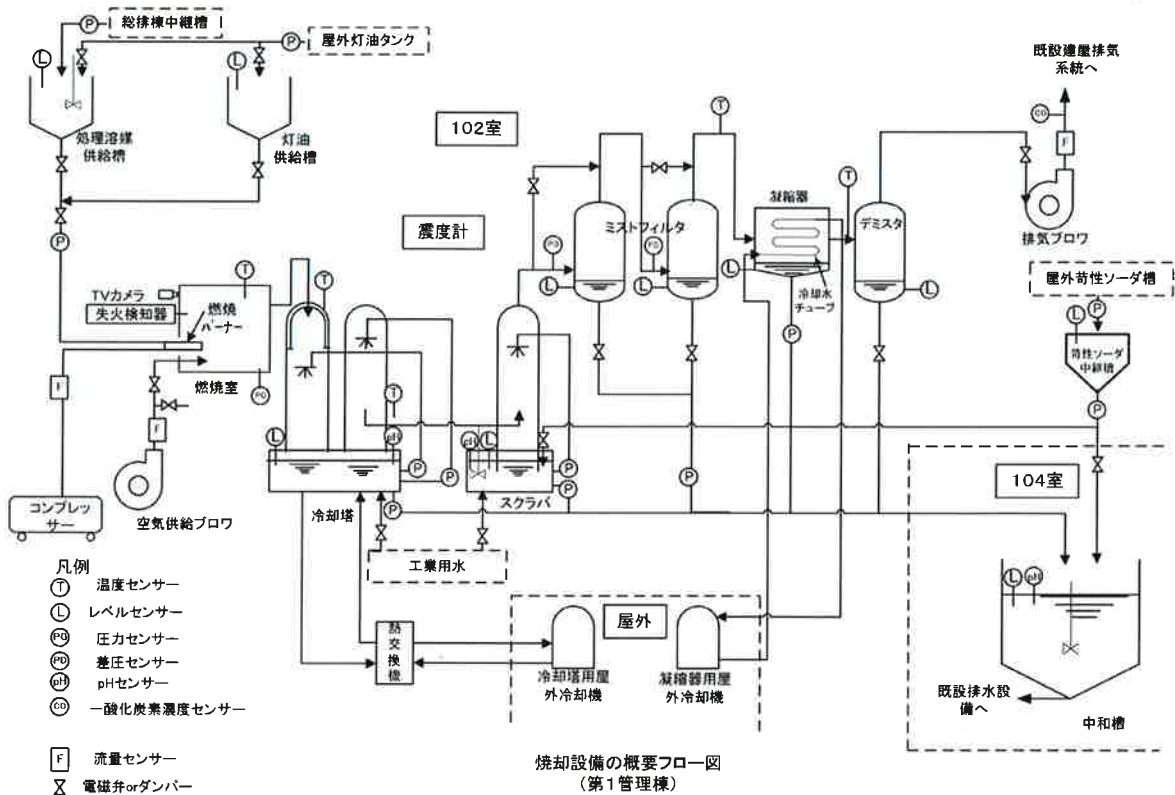
5/21 第9回 第三者会議

: 通常運転状況見学、運転実績、点検対応説明

7/17 第15回 空間線量調査会

10/24 第16回 空間線量調査会

焼却設備の概要(1) 焼却設備の構成



焼却設備の概要(2)



焼却炉本体



冷却塔



スクラバ



ミストフィルタ

181105第10回焼却活動第三者会議資料

17

焼却の運転実績および排気・排水の実績(2015年)

		2015年												累計		
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月			
稼働日数	日	6	6	6	14	13	12	15	11	17	13	17	10	140		
焼却処理量	溶媒液量	m ³	0.68	0.67	0.59	1.51	2.19	1.57	1.85	1.31	2.87	2.09	3.15	1.85	20.31	放出管理目標値
	200ℓドラム缶換算	本	3	3	3	8	11	8	9	7	14	10	16	9	102	(3ヶ月平均濃度)
排気 [第1管理棟] (核種:U)	1ヶ月平均濃度 ^{注1)}	Bq/cm ³	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.5×10 ⁻⁹
排水 [廃水ポンド] (核種:U)	1ヶ月平均濃度 ^{注2)}	Bq/cm ³	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	8.0×10 ⁻³

注1)*: 検出下限値(3.7×10⁻¹⁰ベクレル/cm³)未満を示す(安全協定の放出管理目標値より1桁低い)

注2)*: 検出下限値(7.4×10⁻⁴ベクレル/cm³)未満を示す(安全協定の放出管理目標値より1桁低い)

181105第10回焼却活動第三者会議資料

18

焼却の運転実績および排気・排水の実績(2016年)

		2016年												累計		
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月			
稼働日数 ^{注1}	日	12	16	3	9	13	15	16	13	15	13	10	0	275		
焼却処理量	溶媒液量	m ³	2.25	2.96	0.47	1.67	2.20	2.75	2.94	2.28	2.80	2.44	1.72	0	44.79	放出管理目標値 (3ヶ月平均濃度)
	2000ドラム缶換算	本	11	15	2	8	11	14	15	11	14	12	9	0	224	
排気 [第1管理棟] (核種:U)	1ヶ月平均濃度 ^{注2}	Bq/cm ³	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.5×10^{-9}	
排水 [廃水ポンド] (核種:U)	1ヶ月平均濃度 ^{注3}	Bq/cm ³	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	8.0×10^{-3}	

注1)2016年11月下旬~2017年2月中旬まで運転停止(設備点検整備、作業者が他業務に従事)。

注2)*:検出下限値(3.7×10^{-10} ベクレル/cm³)未滿を示す(安全協定の放出管理目標値より1桁低い)

注3)*:検出下限値(7.4×10^{-4} ベクレル/cm³)未滿を示す(安全協定の放出管理目標値より1桁低い)

181105第10回焼却活動第三者会議資料

19

焼却の運転実績および排気・排水の実績(2017年)

		2017年												累計		
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月			
稼働日数 ^{注1}	日	0	6	10	0	0	5	15	7	15	11	18	11	373		
焼却処理量	溶媒液量	m ³	0	1.14	1.90	0	0	0.95	2.75	1.24	2.80	2.05	3.33	2.08	63.02	放出管理目標値 (3ヶ月平均濃度)
	2000ドラム缶換算	本	0	6	10	0	0	5	14	6	14	10	17	10	315	
排気 [第1管理棟] (核種:U)	1ヶ月平均濃度 ^{注2}	Bq/cm ³	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.5×10^{-9}	
排水 [廃水ポンド] (核種:U)	1ヶ月平均濃度 ^{注3}	Bq/cm ³	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	8.0×10^{-3}	

注1)2017/2/20から運転再開、2017年3月下旬~6/15まで運転停止(保管溶媒の一部にダイフロイル(フッ素、塩素含有不活性オイル)の混入が判明、

設備の腐食抑制対策、排気排水への影響確認)、6/16から運転再開。

8/23から保管中のTOA-オクタノールを10%混合した溶媒を焼却。

注2)*:検出下限値(3.7×10^{-10} ベクレル/cm³)未滿を示す(安全協定の放出管理目標値より1桁低い)

注3)*:検出下限値(7.4×10^{-4} ベクレル/cm³)未滿を示す(安全協定の放出管理目標値より1桁低い)

181105第10回焼却活動第三者会議資料

20

用語集

・保管廃棄物(放射性固体廃棄物)

固体廃棄施設内で保管中の放射性固体廃棄物。収納物は、紙、ポリ類等の可燃物と金属、コンクリート等の不燃物。旧加工設備の作業中の不用物や設備撤去工事における撤去物を鋼製容器(200Lドラム等)に密充填して固体廃棄施設に搬出する。

・固体廃棄施設

保管廃棄物(放射性固体廃棄物)を保管する施設(建物)。

・旧加工設備

臨界事故前に加工事業(ウラン粉末の製造)で作業していた設備。

・空間線量調査会

保管溶媒焼却の安全性確認のために設置され、定期的に(原則として年4回)、弊社敷地内4箇所の定点の空間放射線量率を、自治体にお立会いいただき 近隣住民の皆さまとともに計測し、焼却による環境への影響がないことを確認するための会議。

・第三者会議

保管溶媒焼却の安全性確認のために設置され、定期的に(原則として年2回)、焼却設備の運転状況を確認して いただくために、住民代表、放射性廃棄物の 処理・放射線管理・保安及びリスクコミュニケーションの専門家、自治体からのオブザーバーで構成される会議。

・30%TBP-nドデカン

TBP30%、ノルマルドデカン70%の容積割合で混ぜた油類。

・TOA(トリオクチルアミン)

TBP、ドデカン同様、消防法の第4類危険物(引火性液体)。窒素を含んでおり、焼却すると炭酸ガスと窒素酸化物(NOx)になる。排気中NOx濃度は法規制値より十分に低いことを確認済。

・オクタノール

アルコール類でTBP、ドデカン同様、消防法の第4類危険物(引火性液体)。

・ベクレル Bq

放射能(放射線を出す能力)の量を表す単位 (放射性物質から1秒間に出る放射線の量)。

・検出下限値

分析装置で検出できる最小の値。安全協定の放出管理目標値より1桁低い値である。

・ 3.7×10^{-10} ベクレル/cm³

0.00000000037 ベクレル/cm³、1立方センチメートル当たり100億分の3.7ベクレルの放射エネルギー。

・ 7.4×10^{-4} ベクレル/cm³

0.00074 ベクレル/cm³、1立方センチメートル当たり1万分の7.4ベクレルの放射エネルギー。